

Die Eiche

ディ アイヘ
<http://www.idg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナースィングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

難民流入とテロの脅威で揺れるドイツ 「反発より、多い市民の支援」 「国際協力でシリア内戦終結を」 大使館 F・イエーガー氏語る 協会創立 20 周年記念 新春講演会開く

当協会は今年創立 20 周年を迎えるが、その記念事業の第一弾として「新春講演会」を 1 月 23 日、千葉市の生涯学習センターで開催した。講師はドイツ連邦共和国大使館一等書記官、フローリアン・イエーガー (Florian Jäger) 氏(37)=写真右=で、テーマは「難民とテロに試練に立たされるドイツとヨーロッパ」。同氏は、ドイツ国民は大量の難民流入に多様な反応を示すが、「財政的に余裕があり、難民受け入れに経験豊かなドイツが対応しなければならない」と述べ、「難民とテロの原因であるシリアの内戦終結と周辺国の安定に欧州、国際社会の協力が必要だ」と強調した。

講演会はドイツ大使館、千葉県、(公財)日独協会の後援を得て行われた。会場には会員や家族、昨秋の慰霊祭でオーケストラ部員とともに参加した県立千葉女子高の山岡健先生たち計 53 人が来場した。

開会の挨拶で宗宮好和会長は「難民とテロを巡り悲惨な状態が連日報道されているが、ドイツと欧州がどう対応していくのか。難民には鎖国状態の日本にとっても大変重いテーマである」と講演に期待を寄せた。

イエーガー氏はまず、当協会の創立 20 周年に祝意を述べ、講演に入った。

同氏は昨一年間にドイツの人口 8200 万人の 1.5%に当たる 100 万人以上の難民がドイツに流入したと話し「短期間で衣食住を確保しなければならず、語学教師などあらゆるものと、人手が不足している」と、州や自治体の苦悩ぶりを明らかにした。しかし「ドイツの財政状況には余裕があり」十分対応が可能であると自信を示した。

難民流入に対するドイツ国民の反発や排斥運動に同氏は「難民収容施設への襲撃や反対デモが後を絶たないのは確かだが、市民や企業レベルの支援の輪の方がはるかに多い」と強調した。

イエーガー氏は「難民支援は人道的な義務であり」

「ドイツは難民流入に多くの経験を重ねてきた」というメルケル首相の発言を引用し、1945 年の第二次大戦後旧ドイツ領にいた 1200 万人、1960、70 年代の数百万人の外国人労働者、東西冷戦終了後にはソ連領の「ドイツ語を話さないドイツ系移民」200 万人と数万人のユダヤ系の人びとをそれぞれ受け入れてきた歴史を語った。同氏は「私たちは（この難民問題を）克服できると首相は語った」「グローバル化した今日では国を閉ざしていてもうまくいかない」と主張した。



やめれば（テロが）解決すると考えるのは短絡的である」とし、「難民流出の原因であり、イスラム国の台頭を助長しているシリアの内戦を欧州、国際社会の協力で終結させなければならない」と力説した。

しかし、イエーガー氏はシリアの内戦と周辺国の混乱は長い時間をかけて起きたことであり、関係勢力の利害が複雑であるために「内戦終結は容易ではない」と苦悩をにじませた。

最後に、同氏は大晦日に起きたケルン事件に触れて「すべての難民に犯罪の傾向があるかのような主張は誤りだ」と述べ、むしろ人員削減などにより対応できなかった警察が問題である、との認識を示した。イエーガー氏は、難民とテロをめぐる「問題は山積しており、多くの試練に理性的な対応が必要であり、大衆迎合的な流れは防がなくてはならない」と、講演を締めくくった。

この後、4 人の会員からドイツ社会の右傾化や治安状況をめぐる質問があり、同氏が熱心に答えていた。

懇親会もなごやかに

講演後、近くのレストランでイエーガー氏、通訳の田口絵美さんを交えて平尾浩三・当協会名誉会長ら会員 46 人が懇親会を開き、なごやかに歓談した。

【講演要旨は 2 面に】

新春講演会 講演要旨

シリアなどの内紛で、現在大量の難民がドイツ、欧州に流入している。しっかりした対応が必要だ。国際社会は人びとが自分たちの土地を離れる原因となっている紛争、地域の安定と安定を脅かしている紛争の終結への取り組みを進めなければならない。テロの防止も重大な試練の一つで、欧州を超えた課題である。

■**難民について** 昨 2015 年、ドイツに 100 万人以上の難民が流入した。ドイツの人口は現在 8200 万、人口の 1.5% に相当する数字であり、大幅に拡大している。州や自治体により難民の収容先確保に相当苦心している。衣食住の確保だけでなく、収容先では語学講師、ソーシャルワーカーなどあらゆるものと人が不足しており、役所も人手が不足している。財源の手当では、ドイツは現在歳入が十分あり、実現可能である。

■**国民の反応** 非常に多様で、一方で受け入れ（反対）デモや難民収容施設への襲撃事件が後を絶たないのは残念ながら確かである。他方、市民レベルで難民への強い支援の動きがあるのも確かだ。衣服や生活必需品の差し入れなどがあり、自宅に難民を収容しようという申し出もある。収容施設でも食事の調理の手伝い、ドイツ語授業や医療サービスの提供などボランティアによる無償の支援がある。企業側の反応も大変好意的で、難民に職業訓練を提供しようという会社も。こうした支援の動きは外国人排斥、難民への憎悪犯罪のように大きく報道されないが、支援に加わる人がはるかに多い。

■**難民大量発生の原因** シリアでは、かなり前からの内戦で情勢が悪化している。国際社会の支援が縮小されたことで難民の逃れる先であるシリア周辺諸国の情勢が悪化し、生活の未来に展望を持っていない人が急増している。シリア周辺以外のエリトリア、



南スーダン、アフガニスタンでも状況は悪い。他方、ドイツはこの数年経済と社会が安定してきている。ドイツは多くの人びとの移転先として非常に魅力的に映っており、EU の中で経済状況があまりよくない国々からも移民として来る。

■**ドイツの対応** メルケル首相は「苦境を逃れて来る人を助けるのは人道的な義務である」と述べ、ドイツは難民流入に対応する経験を重ねて来た、とも指摘した。1945 年の大戦終了直後の数年にわたり旧ドイツ領を追い出された 1200 万人近くの難民、1960、70 年代には何百万の外国人労働者が来た。現在、ドイツ国民の実に 1/4 がいわゆる移民の背景を持つ人びとであるといわれる。冷戦終結で、今度はドイツ系ではあるが、もはやドイツ語を話さない旧ソ連諸国にいた 200 万人近くのドイツ系の住民、何万人ものユダヤ系の人びともドイツは受け入れてきた。難民受け入れ数の上限を設定するべきだ、と求める声もあるが、(なんびとも) 庇護を受ける権利を有すると規定しているドイツの基本法に矛盾するし、現実的にも実現不可能だ。

■**必要な政策** ドイツの政治が対応しなければならず、欧州、国際レベルの協力が必要。2015 年の夏、秋に難民の移動がピークを迎えたが、難民が着いた最初の国が受け入れなければならないというルールは公正性を欠き、改善する必要がある。EU はあまりにも長く問題を無視し続けてきた、との批判がある。地中海で難民の死亡事故は以前から多数発生しており、政治はもっと早く対応してしかるべきだったのだ。

■**テロ対策** もう一つの焦眉の課題で、これにも国際協力が必要。パリで起きた悲惨な事件はイスラムによるテロが西側世界に依然として大きな脅威であることをみせつけた。テロは難民問題と同じ時に起きているが、テロを難民問題と結びつけて考えるはいけなない。パリ事件の犯人のうち 2 人が難民だが、他の 7 人はフランス、ベルギー国籍。自国で育ったテロリストたちが問題だった。他の事件でも同じで、難民を受け入れなければテロが解決すると考えるのは短絡的だ。しかし、両者の間には一つ関連性がある。シリアの内戦こそ、一方では「イスラム国」の台頭を助長し、他方では人びとが難民化する原因になっている。シリア内戦の終結ができるだけ早く必要だが、その関係勢力は利害が大変複雑で終結は容易ではない。

■**冷静な対応を** 難民をめぐる社会が感情的になると、冷静な論議をするには大きな困難を伴う。好例がケルン事件を巡る議論だ。捜査で犯人の多くが外国人で難民申請者とわかった。難民受け入れに反対の人びとがこの事件を例に自分たちの主張が正しいというのは誤りで、圧倒的多数の難民はそうではない。(難民とテロをめぐる) 問題は山積している。さまざまな試練に理性的に対応し、大衆迎合的な流れを防ぐことが重要だ。

講師 Florian Jäger 氏略歴：1978 年ミュンヘン生まれ。1999-2000 年パッサウ大学で法学専攻。2006、7 年デュッセルドルフ上級裁判所で司法試験。2008 年ドイツ外務省入省。2009-2012 年外務省文化コミュニケーション局。2012-15 年大阪・神戸ドイツ領事。2015 年からドイツ大使館政務部一等書記官。



オクトバーフェスト 最高!!

湯浅 正人



初の立食・バイキング方式
楽しかった X マス&忘年会

ドイツといえばビール。ビールならドイツですね、私には。世界最大のビール祭り・ミュンヘンのオクトバーフェストは最高です。友人を無理やり誘ってこの祭りが日程にあるツアーに行きました。2012 年でした。

この祭りは開催当初は馬車にビール樽を乗せパレードします。盛り上がりますよね。たった 2 週間に 600 万もの人が世界中から集まります。国や言葉も、肌の色も関係ない。皆、肩を寄せ合い大ジョッキを掲げて!! なんでも、東京ドーム 9 個分の広さだというテレジェンビーゼに 14 の巨大テントが俄かに作られます。テント 1 つに 1 万人が入る。私はこの時、巨大テントはおろか脇の小さなテントにも入れずに会場のブースという感じのところで 0.5 ㍓を飲んだだけ。それでもやっとの思いで飲んだビールはうまかった。

このフェストでは「純粹令」で大麦、ホップ、水だけで造ったビールが出る。こくがありますよ。16 世紀以来の伝統を守っています。日本のビールは米やいろんな穀類、混ぜ物が入って馴染めないなあ。サントリーならまだいいけどね。ベルギーのビールは別です。混ぜ物はあるけど、フルーツの香りがあって長く熟成させたワインのような味わい。値段も手頃ですし。



オクトバーフェストには 2013、2015 年にも行きました。最初があんな風だったので、現地ツアーに入り、念願の巨大テントに陣取って 1 ㍓ジョッキでグ〜と。4 杯も飲んじゃった。時間をかけてね。ビールはなんといっても、出来立ての味がいい。会場にビールを出せるのはミュンヘン市内に醸造所を構える 6 社だけです。14 世紀来の老舗アウグスティーナーと、シュパーテン、パウラナー、ハッカーブショール、ホーフブロイ、レーベンブロイ。さて、今度はどのビールを飲むか、なんていうのも楽しみです。



会場は 7 割くらいがドイツ人だそうで、皆強いね。酔っぱらって居る人なんぞ居ません。・・・と、いうのは嘘で、“ビールの死体” (Bierleichen) という言葉があるくらいで、急性アルコール中毒で運ばれて行く人をよく見かけます。

テントの中では楽団が演奏します。ドイツ民謡でしょうか。色とりどりのディアンドル (エプロンドレス) を身に纏った、体格のいい若い女性たちが大きなジョッキを幾つも抱えてにこやかに行き交います。この姿が歌や演奏とともに雰囲気をもた、盛り上げるんです。会場の気分は昼よりも、やっぱり夜でしょう。

また、行こうっと!!

京成津田沼駅近くの「コールポニョポニョ」で、昨年 12 月 12 日 (土) に開催した。参加者は会員など 32 人。今回は会場で参加者が出来るだけ多く、自由に楽に交歓できるように初めて立食で、飲食はバイキング式にした。首掛け名札が用意されたこともあり、充分交歓できたと思いますが、皆さんはどうでしたでしょうか?

パーティーは須古常任理事の司会で、宗宮会長が 2016 年に当会設立 20 周年を迎えるため種々の記念行事をともに準備していきたいと挨拶、金谷専務理事が乾杯の音頭をとって開始。須古さん作成の歌集が配られ、二宮さんの指導のもと馴染みの福康子さんのピアノ伴奏でクリスマスソングを合唱。料理が前菜から順次運ばれ暫時気分が高まって行く。暫く歓談後、今年新入会の比田勝孝昭・喜美子夫妻が紹介された。同家では四六時中ドイツ音楽を聴かれている由。

その後もご馳走とドイツや日本の歌を合唱で交互に楽しみ会員の交歓が盛んになっていった。



白井名誉会員のご挨拶の後、二見理事から 1 月の新春講演会の案内、小野理事からは 5 月のドイツ研修旅行の詳しい計画など創立 20 周年行事の紹介があった。最後に橋口副会長による一本締めの後全員の記念写真を撮って、5 時半からの約 2 時間半の X マス・忘年会がお開きとなった。(坂本宗秋)

**協会創立 20 周年記念
ドイツ研修旅行
参加者追加募集
締切は 2 月末に**

「デュッセルドルフ日本デーと古城街道の旅 10 日間」(5/20-29)の参加者募集を 2 月末まで延期します。協会旅行委員会

は今回が記念旅行であるため、多くの会員、家族の参加を願っています。1 月末現在で約 20 人が応募されていますが、目標の 25 人までにはまだ余裕がありますので、どうぞご参加くださるようお待ちしております。

連絡先: 杉田房之 電話 047-444-6423 E-mail: sugita-f@tbz.t-com.ne.jp 小野浩 電話 043-277-3400 E-mail: hiroshi-ono@paw.hi-ho.ne.jp

※恒例により、旅行参加者と会員に事前勉強会を予定しています。日時、場所は以下の通り決まりました。講師はいずれも当協会会員が務めます。詳細が決まり次第、文書と Eiche 4 月号でお知らせします。

<ドイツ研修旅行・事前勉強会(予定)>

日	時間	場 所	テーマ(仮題)
4/11月	15:30	船橋市中央公民館	・日程と訪問先
	～	＝船橋市本町2-2-5	・出発準備と注意事項
	18:00	Tel:047-434-5551	・ドイツと音楽・デュッセル
			ドルフと千葉県、日本デー
4/21木	15:30	同 上	・見どころ(ハイデルベルク、
	～		ローテンプルク、ニュルン
	18:00		ベルク、パイロイトなど)
4/28木	15:30	同 上	・中世の古城と騎士
	～		・リーメス &
	18:00		ローマとゲルマン
	18:30	未 定	懇親会

◇これからの催し

催しもの	月 日	時 間	場 所	議 題
理事会	4/8金	18:00-	船橋中央公民館	・新役員人事・2015
				年度収支決算報告
				・同事業報告など
総 会	4/23土	14:00	船橋グランドホテル	同 上
		16:00	＝船橋市本町7-11-1	講演会
		～18:00	Tel: 047-425-1121	&懇親会

**初の女性講師 ユニークな教材
好評だった '15 ドイツ語講習会**

昨年 10 月 30 日～12 月 4 日の金曜日に 5 日間、毎回午後 6 時 10 分～8 時 10 分に実施した。

講師は当会理事で、東京音楽大学の木戸芳子教授にお願いした。当会初めての女性講師。会場は日により船橋市中央公民館又は同東部公民館になった。 ↗

受講生はこれまでで最も多い会員 19 人、非会員 9 人になり、非会員は現役の若い人で女性受講者も多く、ご夫妻での参加もあった。教材はユニークで、ドイツ国籍取得を希望する 16 歳以上の外国人に課せられる「国籍取得テスト」を使用した。テストはドイツ人の常識があれば正解出来るということだが、ドイツの法秩序・社会秩序、更に社会生活等広範囲な分野から出題されている。連邦・州議会又 EU の選挙制度に関わる問題はもちろんだが、ドイツで働くために連邦庁にある職業情報センターはどのように役立つか、大人が Abitur (高校卒資格) を取得するにはどこに行ったらよいか、といった身近な問題もある。



ナチの成立・ユダヤ人への迫害等に就いての質問は受講生に正しい歴史認識を促している。本講習会では 33 題の問題に取り組んだ。問題そのものには 4 択で解答が記載され 正解には ☒ 印を記入するだけだが、講師がこの講習会の為に編纂された各問題の背景や解説が勉強対象となった。私たちには現代ドイツの状況を知る良い機会であった。これらのテキストのほか、毎回講義当日用の参考資料が配布され懇切丁寧に解説された。受講生との質疑応答も活発で解説文のドイツ語の解釈も加え、毎回時間いっぱい、内容が濃い授業であった。受講生も自前の資料を持参することも多く、講師は受講生の熱心な学習意欲を高く評価していた。また受講生からも懇切な説明に講師に感謝すると共に今後もドイツの実情を知るような講習会を開催してほしいとの声が寄せられた。最終講義の後に近くのレストランで懇親会・謝恩会を開催。飛び入りで平尾浩三名誉会長も参加され、総勢 17 人の大変有意義な会となった。(坂本 宗秋)

編集後記

◆それにしても、ドイツへの難民流入はすさまじい。ドイツに、昨年仙台市(1/1 現在、108 万人)並の大都市が突然出現した感じ。講演会でイエーガー氏が語る難民に対するドイツの義務感と政策提言は理解できる。だが、メルケル首相が強いられる相次ぐ難民抑制策は「現実」の厳しさを物語る。「欧州は戦後築いてきた統合、平和、寛容、自由の理想を貫こうとするほど裏腹の結果が生まれる自縄自縛に陥っている」(『ドイツリスク『夢見る政治』が引き起こす混乱』三好範英著、光文社新書)という指摘が気になる。原発問題でも『ドイツは夢見る人』の危うさがある」とも◆日本では、昨年 7586 人の難民申請に認定者は僅か 27 人(法務省)。まさに鎖国状態である。治安当局が秘かに警戒する、ある国の状況次第で、大量の難民が日本海を渡ってくる事態はないのだろうか。難民とテロは“対岸の火事”ではない。(M.T.)